

あいみ富有の里

平成27年 3月 2日発行
発行元
あいみ富有の里地域振興協議会
広報誌編集委員会
問い合わせ先 64-3504
fuyunosato@town.nanbu.tottori.jp

～お知らせ版 第79号～

いきいきサロン交流会

2月1日(日)集落単位で活動している、富有の里いきいきサロン交流会を「いこい荘」で開催した。

いきいきサロンは、地域住民が身近な場所に気軽に集まり、ふれあいを通じて生き甲斐づくり、仲間づくり等さまざまな形でサロン活動が行われている。

当日は結成されている8集落から約70人が参加し、国立音楽院長の「音楽がもつパワーで楽しく介護予防」の講演、音楽療法の演習、国立音楽院生徒の演奏のほか、弁当を食べながら参加者の交流を深めた。

協議会では、未結成集落に普及を図ることによって、住み慣れた地域で生き甲斐を持ちながら、社会参加が図れるよう支援を行っていく予定。

(ふれあい部)



第19回富有塾開催

地域おこし協力隊員で、当地域(鶴田)に居住する「徳林亜美」さんをコーディネーターとして富有塾を開催した。

地域おこし協力隊員は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地域に地域外の人材を雇用し、地域社会の新たな担い手として、その定住・定着を図り地域力の維持・強化を図るもので、現在南部町に2人在籍。

地域おこし活動の支援や農業の応援、住民の生活支援など農作物の庭先集荷等の「地域協力活動」に従事している、「徳林」さんから見た、富有の里地域についての感想を聞いた。

「地域の様々な行事に参加してきたが、観光地及び史跡等の受け入れ態勢がよく整備されている。隣近所の付き合いコミュニティが確立されている。青空市は物・質とも大変良い。」と述べていた。

当日は、参加者が11人と少なかったものの、外部からの若い人の意見が聞けて、今後の活動の参考に資するものが多々あった。(総務企画部)



地域おこし協力隊の「徳林亜美」さん

専門部の活動報告

(部長談)

(総務企画部)

今年度は特に目新しい事業は行っていないが、協議会全体が盛り上がるよう努めてきた。

青空市の目玉である、4月の「富有の里祭り」12月の「青空市感謝祭」は今年も盛況だった。7月には今年も就将校区との都市間交流事業として、中海遊覧から米子高専での「エンジニア体験」と子供たちは貴重な体験をした。また、南アフリカのコートジボアール国から「地方行政研修」の一行を迎え、富有の里の取り組み状況の説明と、意見交換会を実施し交流を深めた。

路線バス「御内谷線」の利用促進を図るため鳥取県の助成を受け、特産品である梨・富有柿を乗客に配るフルーツバスを運行し好評を博した。

富有塾を2回実施し、遊休農地解消を目指し試験栽培したソバを利用した講習会及び試食会を行い好評であった。

智頭町の先進地を視察し、かき餅の製造販売、農家レストランの運営等、今後の活動に参考に資することができた。(H)



(生涯学習部)

地域住民の交流として、親水公園でのグランドゴルフ大会、手間地区との合同事業で秋に「会見地区運動会」を実施。

伝統文化の継承として、夏の盆踊りを今年度は発祥の地区の雲光寺で、「小松谷十七夜」に協賛し実施。

地域の見守り(防犯)・青少年育成として夜間のパトロールを実施。(O)



(地域づくり部)

本年度も例年同様の活動を行った。

6月、「ほたるウォーク」

親水公園の草刈ボランティアを6月と10月に実施。

11月、賀野地区の子供たちと、えぷろんのイルミネーション装飾を行い、2月末まで点灯した。

児童生徒の通学路除雪は、概ね10cm以上の積雪を基準に体制を整えたが、例年2回程度の出動であった。

えぷろんの植栽は、例年どおり行い今年は剪定も行った。

部会を含め、各種活動に部員の参加が少ないのが猛省点であるが、今後とも引き続き地域づくり部の活動に協力願いたい。

(K. H)



(ふれあい部)

6月、地域の子供たちと「笹まきづくり」

9月、敬老会

12月、高齢者世帯へ米粉餅の配布

2月、賀野地区合同いきいきサロンの開催

これらの行事に、たくさんの方に参加して頂いた。

他に、えぷろん青空市に8月、12月期を担当した。

(Y)



富有の風

- 今年度は第2期地域づくり計画1年目。協議会が発足し8年。
- 中山間地域特有の遊休農地対策、交通弱者・買い物難民対策等取り組む課題が多い。
- 気になる言葉がある。「ワーキングプア」だ。最近初めて言葉として意識した。収入が200万円以下(月額15万円)、拘束時間が長い派遣社員、生活保護の水準以下の収入の社員・契約社員、正社員でもギリギリの生活さえ維持が困難。労働者の全体10%、女性は40%とのこと。一部の富裕層、企業の安全弁として利用され、これでは若者が結婚し、出産なんて無理、生活さえできない。少子化対策の原点はここに潜む。生き甲斐を持って働ける場の提供は誰の手に・・・。

●地域にあるものを活用し、身の丈に合った地域振興を図りたい。

そのためには、日夜まちづくりのことしか考えないような情熱的な人材が不可欠だ。(Na)



編集後記

本号で2年間担当した、広報誌編集委員の任期も満了となる。他の協議会のように派手さ(?)はないが、活動内容を地道に広報してきた。如何でしたでしょうか・・・引き続き、集落行事の情報を、コメント・デジカメ写真で提供願えれば親しみやすい広報誌となろう。(広報誌編集委員会)
(総務)板持 満・(生涯)堀田直子・(地域)宮脇敏泰・(ふれあい)赤井澄江
(事務局)中井義宏